

ななかま

～ 弥生 ～

日本では、旧暦3月を弥生（やよい）と呼んでいました。弥生の由来は、草木が生い茂りはじめるという意味が込められていたようです。以前、「生」という漢字の成り立ちを取り上げたように「生」には、生む、生まれる意の他に生える草木が芽を出すという意味が込められていました。「弥」（訓：や・いや・いよいよ）は、訓読みで“や”と読み、いよいよ、ますますという意味を持っています。「木草弥や生ひ月（きくさいやおひづき）」が詰まって「やよひ」となったと言われています。草木が芽をふきいよいよ生い茂っていく様も旧暦の漢字にこめられていました。その他に、3月は、花月（かげつ）、嘉月（かげつ）、花見月（はなみづき）、夢見月（ゆめみつき）、桜月（さくらづき）、暮春（ぼしゅん）等の別名もある通り、暦も花の咲き始める春を言い表していたんですね。アメリカ



では、学校カレンダーの雰囲気異なるもの日本では年度末として、毎年3月には多くの学校をはじめ、官公庁、会社などが次の年度に向けて引越しや移行作業、新生活などで大忙しになる月です。

補習授業校について

～その6 学校の様態～

補習授業校を考えると時に、在外教育施設として設立されている日本人学校ともこれまで勤めた国内の学校とも、大きく異なる点があります。それは“学校”という名のつく施設でありながら、学校としての機能が十分に備わっている組織ではないということです。借用校として制約の多い施設面に始まり、人材面、そしてそれを担う組織立ての面においてです。例えば、子どもたちに直接関わる面として、十分に児童、生徒指導に関わる時間的な余裕、スタッフがありません。また、保健室もありません。子どもたちが、病気をしたり、けがをしたときに専門的に対応をする人材もそのための施設もありません。当校では、当たり前のこととして看過されていることですが、お子さんを預かる教育施設としては大きな問題だと感じています。実際に、学校概要にも下記のように記されているような対応しかできないのが実情で、このことは他補習校でもほぼ同様な状況です。

校内における病気及び事故などについて（抜粋）

* 児童、生徒が病気、けがなどで教室での学習が困難な場合、学校は直ちに保護者に連絡します。当日の特別な連絡先は担任に必ず知らせておいてく

プリンストン日本語学校（補習校部）



No.39

平成20年 3月2日

文責 堀之内 一天

ださい。

* 学校での応急手当は少しの間横にならせるか、もし熱があれば頭を冷やすことぐらいしかできません。

学校内での事故などは、実際に起きてしまうとその重要さが浮かび上がります。できるだけ未然に防げるよう教職員へも伝えてありますが、保護者の皆さんからも意識して安全に過ごせるようお子さんに声をかけください。（運営便りにいい話が載っています。）

補習校については、なかなか言い尽くせない面もありますが、ここ数回の便りで補習校についての理解を深めて頂きたく思い、その様子を書き連ねてきました。

今後も在外の地で暮らす子どもたちのために良き学校として活用して頂ける学校づくりを関係者の皆様と進めていきたいと考えています。あと、3回ほどで今年度も卒業式を迎えます。どうぞ、今後ともご理解、ご協力を頂きますようお願い致します。

「人生で大切なことは全て幼稚園の砂場で学んだ」

という本があります。人間、どう生きるか、どのようにふるまい、どんな気持ちで日々を送ればいいのか、本当に知っていなくてはならないことを、わたしは全部残らず幼稚園で教わったと書かれたその本には、次のようなことが書かれています。

- ❖ 何でも皆で分け合うこと
- ❖ ずるをしないこと
- ❖ 人をぶたないこと
- ❖ 使ったものはかならずもとのところに戻すこと
- ❖ ちらかしたら自分であと片づけをすること
- ❖ 人の物に手を出さないこと
- ❖ 誰かを傷つけたら、ごめんなさいということ
- ❖ 食事の前には手を洗うこと
- ❖ トイレに行ったらちゃんと水を流すこと
- ❖ つり合いのとれた生活をする
- ❖ 毎日少し勉強し、少し考え、少し絵を描き、歌い、踊り、遊びそして、少し働くこと
- ❖ 毎日必ず昼寝をすること
- ❖ 表に出るときは車に気を付け、手をつないで離ればなれにならないようにすること
- ❖ 不思議だなどと思う気持ちを大切にすること



この中から、ひとつ取り出して、体験豊かな大人の言葉に置き換えてみると、それはそのまま社会生活や家庭の生活、さらには仕事、世間一般に通用することになるのではないのでしょうか。日本語学校の生活にも応用してみてください。